



No.3 / March, 2006

さつきの丘だより

竹村内科・腎クリニック通信

〒322-0029 栃木県鹿沼市西茂呂 4-46-3

Phone: 0289-60-7577 Fax: 0289-60-7578 URL: <http://take2002.on.arena.ne.jp>

透析センター編

最新鋭 CT 導入

最新型のX線CT撮影装置を導入しました！ドーナツ状の装置内部に入って、今までのレントゲン写真では見えなかった、頭や体の内部の詳細な写真を撮影することが出来ます。東芝製の最新型、「4列・マルチスライス・ヘリカルCT」といって、機械が1回転すると、同時に4断面の撮影をします。頭の撮影なら15秒程度、一般的な腹部の撮影でも20秒くらいで出来てしまう、最高速の装置です。撮影するときは、「息を止めてください」と声をかけられるのですが、このくらいの短い時間なら大丈夫そうですね！



コンピュータを使って体の断面図をつくり、それを積み重ね

ることで立体的な画像を合成することの出来るというすぐれものです。待合室に、見本写真を含んだ紹介ポスターが貼ってあります。いままで大きな病院でしか出来なかった検査ができるなんて、スゴイですね。体の中にペースメーカーなどの金属で出来た金具が入っていても大丈夫です。基本的には体のどの部分の撮影もできますが、詳しくは医師におたずねください。

タケクリなヒト

今回紹介するのは、当クリニックの副院長で「さつきの丘だより」の編集長でもある、根本遵(ねもとじゅん)先生です。みなさん気付いていると思いますが、ちょっとヘンで、おもしろいですね。じつは、先生には特技が...イラストが上手です。特にクマの絵がとてかわいいです。先生にリクエストしてみてもいいのでは！



木もれ陽

先日、久しぶりにあった伯父に私の仕事について聞かれたので、人工透析科で働いていることを話しました。基本的に週3回、3~4時間、血液を人工腎臓に通し、体にたまった余分な毒素と水分を抜く治療であること、制約はあるものの、仕事や旅行なども行えることを話しました。すると、「うあ~！俺はとても耐えられないな~」との言葉。何気ない素朴な感想だったと思います。しかし、一般人には、透析治療はなかなか理解しにくいことを強く感じました。私でさえこのような思いをするのですから、患者さんやご家族は、もっとつらい思いをされた経験があるのではないかと、思いました。日本の透析患者数は、約25万人。透析治療を受けながら、前向きに生活できることを、より多くの人に知ってもらいたいと願っています。(K)

ウラも見てね





昨年末、ハワイで開催されるホノルルマラソンに初めて参加しました。スタートは早朝5時。まだ真っ暗な空に花火が打ちあげられました。参加ランナー2万8千人、沿道の観客はそれ以上という大興奮の渦の中で、スタートラインに立ちました。無事完走できるだろうか？という緊張と不安は、大勢のランナー達の熱気に圧倒されてしまい、「やるぞ！ウォー——！」と雄叫びを上げながら、長い長い42.195kmのスタートをきりました。フルマラソンの完走は、一生に一度はやってみたい憧れでした。私のランニング歴は、禁煙宣言をした平成11年2月からはじまります。当初は5分間走るだけで息切れしていましたが、1年後の地元鹿沼のさつきマラソン10kmコースに挑戦しました。以後毎年参加しています。走ることが僕



のストレス発散です。今回の走りこみは、月間200kmに達しました。本番のスタート約2時間後、周囲が明るくなりはじめ、青い海が見えるようになりました。しかし景色を眺めている余裕はなし。30kmまでは2時間58分と予定以上のペースで走っていましたが、そのあと両足の筋肉痛が突然に出現。ラストの12kmは両足の激痛と暑さとの闘いでした。辛いとき、沿道の応援にとっても元気づけられました。日本ではランナーを応援するとき、「がんばれ！」とか「ファイト！」などと言いますが、英語では「Good job! グッジョブ!」と言うんです。ゴールが遠くに見えたとき、「もう少しなんだ」とつぶやきながら足を動かしているのですが、なかなか近づかなかったのを覚えています。夢にまで見た完走をついに達成した瞬間は、体力も気力も尽き果てていましたが、充実感でいっぱいでした。そのあと2日間は筋肉痛で大変でしたが、この達成感

は忘れられません。また今年も挑戦したいと思っています。成績：4時間35分32秒、5098位（参加者2万8048人、完走2万4295人）。



ドイツには、失恋専門クリニックがある。

失恋して落ち込んだ男女専用のクリニックがドイツに誕生したそうです。担当はビルジット・デリズレ医師。これはミュンヘン近くの

シュワビング病院の中にできたということです。「失恋科」とでもいうのでしょうか。「失恋で心がはりさけると、食欲不振から急激な体重軽減を引き起こします。心身の痛みにいたるまで、身体的・精神的な問題になります。そして、恋の痛手は多くの人々にとんでもない行動を引き起こさせます」ということです。主に、恋愛経験が乏しく、失恋に正しく対処できない10代の若者が対象だそうです。窓口には、失恋した男女が保険証を持ってたくさん集まっているのでしょうか？<
http://www.ananova.com/news/story/sm_1737262.html>